

## 「関西の活かしたい自然エリア」の取り組みについて

関西広域連合広域環境保全局

### 「関西の活かしたい自然エリア」とは？

関西広域連合広域環境保全局は、関西全体で広域の環境保全に取り組み、「環境先進圏“関西”」を目指しています。その一環として、関西市域の自然史博物館のネットワークなどを活用して生物多様性に関する情報を共有・一元化し、わかりやすい形で表現することに取り組んできました。

その取り組みの成果として、平成 28 年（2016 年）11 月に森・川・海のつながりを重視した府県の境界にこだわらない広域的な視点に立ち、生物多様性保全上重要な地域を「関西の活かしたい自然エリア」として 23 地域選定しました。この「自然エリア」はインターネット上でも公開されています。

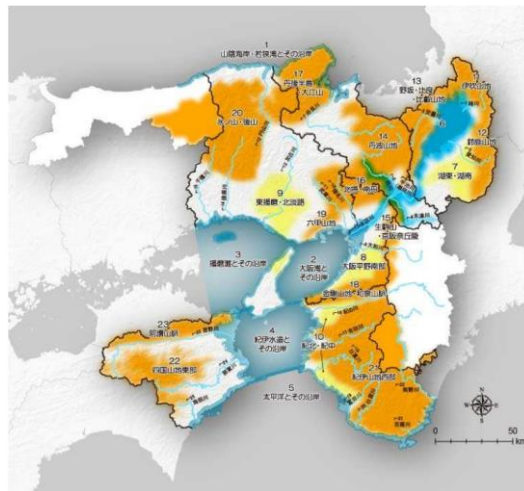


図 関西の活かしたい自然エリア

### 「関西の活かしたい自然エリア」を活かすためのエコツアー

このようにして選ばれた「自然エリア」を積極的に活かす方法として、地域に特有な自然と文化などの地域資源や関連施設の活用を通じて「自然エリア」を守り育てていくための手法として、エコツアーに注目しました。関西広域連合では、エコツアーの担い手になってくれる可能性のある旅行業者や地域の活動団体の方々を対象に、「自然エリア」の見どころやコンテンツを体験してもらい、「自然エリア」を活かしたエコツアーのあり方について検討していただくモデルツアー（エコツアー体験学習）を平成 28 年度（2016 年度）から毎年開催しています。

このモデルツアーは、地域の生物多様性や自然の恵みの重要性、およびそれらと関わる地域の人々の営み（歴史や文化）への気付きと理解を深めることを目的に、地域にある展示・普及啓発のための施設（博物館など）、NPO などによる地域の活動、地元の産物を利用した食事などが、どのようにエコツアーに活用できるのかを体験的に学ぶことを目指すものです。

これまでに「琵琶湖・淀川」エリア、「北摂・南丹」エリア、「紀伊水道」エリア、「東播磨・北淡路」エリアの 4 エリアにおいてモデルツアーを実施してきました。

これらの取り組みが「自然エリア」に限らず、地域の自然資源を活用してその理解を深め、保全や持続的利用を促すきっかけとなることを期待しています。

表 自然エリアエコツアー体験学習の概要

年度	自然エリア	テーマ
平成 28 年度	エリア 6 琵琶湖・淀川水系	湖と河川・氾濫原の生態系と恵み
平成 29 年度	エリア 16 北摂・南丹	里山環境の生態系と人の営み
平成 30 年度	エリア 4 紀伊水道とその沿岸	陸から海への生態系のつながりとその恵み
令和元年度	エリア 9 東播磨・北淡路	東播磨ため池群と低層湿原における水辺環境と生物多様性